

特集：私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて

教育システム情報学＝Educational Systems and Information Science?

田中 孝治*

Does “Information and Systems in Education” Mean “Educational Systems and Information Science”?

Koji TANAKA*

This paper provides readers with an uncomplicated definition of “information and systems in education” as academic discipline. The definition was derived from definition of educational technology and information science. In addition, the paper tries to make a model of educational system on the definition. The system model was consisted of six systems: *teaching system, learning system, information system, cognitive system, group system, and social system*. Moreover, the paper considers the model as map and tries to put some concepts in fruits of research published by JSiSE and outside on the model. Finally, the paper takes up necessary of depict original theories and research questions acquired through progress in the discipline on the map for discussion.

キーワード：教育のシステム化，妥当性境界，境界画定作業，教育工学

1. 自身は教育システム情報学者であるか？

『教育システム情報学マップ』作成のためのワーキンググループに名を連ねたときに、改めて、筆者自身が教育システム情報学を俯瞰する地図の構成に携われるほど教育システム情報学の研鑽を積んだ研究者であるのか、ひいては、そもそも自身は教育システム情報学者であるのかを問うてみた。筆者が教育システム情報学会（以下、本学会とする）に出会ったのは、2013年に金沢大学で開催された全国大会からであり、未だ10年にも満たない。筆者のバックグラウンドにある専門領域は、人間の認知機能を情報処理システムとして捉えることで発展を遂げてきた認知心理学である。筆者の博士論文は、『知識の習得における分散効果の有効利用に関する認知心理学的検討』と

題する「学習者の記憶」を研究領域とした研究であった^(注1)。ちなみに、この博士論文によって取得した学位は、「情報学」である。川山⁽²⁾は、科学全体が知の機構としての専門分野に分化され、専門分野の内部に専門領域が存在し、その専門領域の内部に研究領域（研究主題）が存在する構造を科学システムとして整理している。この構造に従えば、「人間の記憶」を研究領域とする認知心理学は、心理学分野の一つの専門領域であり、同時に、認知科学分野の一つの専門領域でもあると考えることができる。後者の認知科学は人間情報学に位置づけることができる^(注2)ことから、認知心理学の研究において情報学の博士号を取得することは決しておかしいことではない。博士号を取得した8年後の本学会の大会初参加を経て、2017年に本学会の学会誌（以下、本会誌とする）に初めて筆者の

* 金沢工業大学情報フロンティア学部（College of Informatics and Human Communication, Kanazawa Institute of Technology）

^(注1) その一部は、学術誌⁽¹⁾で確認できる。

^(注2) 平成29年度科学研究費助成事業「系・分野・分科・細目表」による。